

テンプレートの使用方法

InDesign形式(CS5以降)

赤の線：フチなし印刷時のはみ出し範囲

フチなし印刷をご希望の場合の絵柄(画像など)をはみ出させる範囲になります。

※この範囲はカットする際に切れてしまいます。

出来上がった本を仕上げる際にこの部分をカットしますが、その際に多少のズレが生じるため本のサイズギリギリに作成しますと本の端に紙の色(白い紙であれば白)が出てしまいますのでご注意ください。

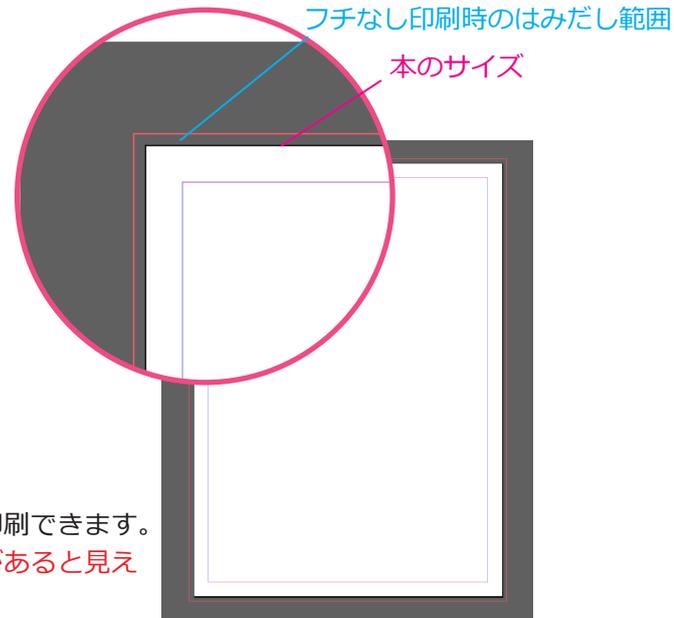
本のサイズ：A4サイズ(210mm×297mm)

この線が本のサイズ(A4サイズ)になります。

紫の線：内側10mmガイド

必要な文字・絵柄などはこの範囲内に入れていただくと安全に印刷できます。

無線綴じの場合、本の綴じ口になる側はこの線の外側に文字等があると見えづらくなります。



データ制作時のご注意

■フチなし印刷にしたい場合

・フチなし印刷をご希望の場合は絵柄を水色のフチなし印刷時のみだし範囲が隠れるまで絵柄等を広げてください。

※この範囲は断裁時にカットされて消えてしまいますのでご注意ください。

必要な絵柄等は本のサイズの線よりも3mm内側までに入れてください。

・仕上がり線ギリギリに配置しますと断裁する機械で多少のずれが生じ、紙の地色が出てくる場合がございます。



■文字切れ

本の端よりも外側もしくは本の端に近いところに必要な文字等がある場合は、断裁時に内側へのズレもありますので文字が切れることがあります。最低でも本の端よりも3mm内側に入れていただくと切れることはありませんが紫の線の内側に入れていただくと切れることはありません。

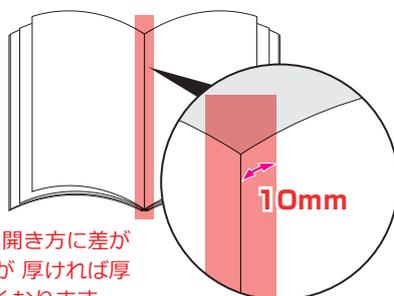


製本方法によっても注意が必要です

■無線綴じ製本の場合

無線綴じはページを完全に開くことができません。綴じ側(本の内側)に文字や絵柄が近いと隠れたり読みづらくなります。

綴じ側(本の内側)に10mm以上の余白を作っておくと本が読みやすくなります。



※ページ数や紙の厚さ、サイズでも開き方に差が出ますのでご注意ください。冊子が厚ければ厚いほど、見えなくなる部分が大きくなります。

■中綴じ製本の場合

中綴じ冊子は綴じ部分まで開くことができますが、製本する際にどうしても多少のずれが起こります。綴じ側(本の内側)に文字や絵柄をまたいで作成いたしますと仕上がりが若干ズレてしまうことがありますのでご注意願います。

